

2016.8.1発行

かい よう  
2016  
8月  
第62号 公民館報 海陽



6月5日 川上・榎ノ瀬地区 虫送り行事  
撮影:阿南市桑野町 喜多 昌弘

# 山上檜ノ瀬地区の虫送り

## 『虫送り』

### 復活を振りかえって

檜ノ瀬地区 中西 幸男

私が住んでいる檜ノ瀬地区では昔から豊作を祈願する『虫送り』という行事があります。

この行事は、平安時代末期の武将 斎藤別当実盛（さいとうべつとうさねもり）が合戦中稲株につまづいて転倒し、相手に討たれたために稲を恨んで実盛が害虫に化けて田んぼを荒らしているのだと伝えられており、田植えが終わった頃に実盛を供養する故事による行事です。

川上地区のあちこちで虫送りをしてきた様ですが、どの地区もあまり続かなかったようです。ここには、高西寺があり、人々が集まる最適な場所があったので、私が小学校入学（昭和31年）の頃はとても盛んだったと思います。

毎年、サイトコ（斎藤）ベツ

トコ（別当）ウツテナントン（つまづいて転ぶ音？）イネノムシヤ（稲の虫は）トサヘイケ（土佐へ行け）と太鼓と鉦を鳴らしながらこの言葉を唱え、槍（やり）長刀（なぎなた）虫入れかご、弁当箱、草履、短冊（たんざく）依り代（よりしろ）などを作りそれを持って皆んなで田の畦道をまわり、その後海部川に槍や長刀を流して供養します。

終戦間もない頃は、子どもが地区内に30名ほどいました。

『虫送り』には沢山の子どもが集まり短冊などを持って歩きました。その後は、鬼ごっこやかくれんぼなどをして遊び、おいしいごちそうを食べられるのがうれしく、楽しみにしていたことが思い出されます。私が、小学校を卒業する頃には、畦道を回るのになくなっていたように思います。その後は毎年、田休

みの形で継承され、その日は地区全員が寺に集まり実盛様を供養しごちそうを食べ、お酒を飲みながらの大人中心の交流の場として続けていました。

平成12年に町の教育委員会からの依頼で『虫送り』を復活してほしいとの要望があり、高西寺の住職の矢野さん、地区代表の澤井さんと共に皆んなで相談して40年ぶりの復活に協力することになりました。昭和30年頃のことを知る人も何人かいて懐かしそうに槍や長刀、草履な



短冊等の道具を持ちあぜ道を歩いて河原へ行きます

どを作っていました。今年で復活して16年になります。

復活最初の年は、子どもが一人もおらず畦道を歩くのは大人だけの静かな行進でした。二年目には川上小学校の5、6年生20名が参加し、いっしょに草履や短冊を作り交流しました。その日はテレビ取材や新聞にも掲載され一気に虫送り行事が知れ渡り沢山の問い合わせがありました。その後、徳島市の俳句会の人達が40名ほど来てくれました。地区の女性達も大忙しでおもてなしに奮闘していました。「海部川はきれいし、緑も豊かでない所ですね。かきませの袖寿司がすごくおいしかったですよ」と言われておおいに喜んでいました。この俳句会の人達はその後3回ほど当地を訪ねてくれました。その一年後には徳島博物館ツアーで約40名の参加や毎年浅川、牟岐の檀家の皆さんも参加してくれます。また、町のボランティアグループやびっくり箱の子ども達が来てくれて130名程の人達であふれ寺の中に入りきれず外での食事をした事もある



皆で道具を川に流します

りました。前日から子ども達数名が準備の手伝いに来てくれて、寿司の具を切ったりそうめんのにする竹を切ったり、竹のしを共同で作りました。

虫送り行事には子どもの存在は欠かせなく毎年のように他の地区、自分の孫、親類や友達の子もさんなどに声を掛けてきてもらい、盛り上げてもらいました。子ども同士が広いお寺で遊んでいるのを見ると幼い頃の懐かしい思い出がよみがえり心地よく感じました。

そして、今年6月5日の日曜日。ふと見ると復活当時地元にも誕生し参加してくれたいて、地域に子どもがいることうれしさを皆んなと話したところで。復活して16年が過ぎ高齢化は避けられず当初30数名いた住民の3分の1ほどが亡くなり、すでに限界集落になっています。

虫送りを続けていくのは困難な状況になりつつあります。なんとか続けてきて感じるのは、お米がすごくおいしい(寒暖の差が大きいため)また、ここ数年まったく稲の病気や虫の被害などもなく順調に収穫できてきたのは、実盛様の供養をしてきたからだと思っております。稲作を通じて自然のありがたさを感じ謝と16年間この虫送り行事に参加協力してくださったすべての人達に感謝します。今後も地区の皆さんと話しながら進めていきたいと思っております。ありがとうございます。

撮影：阿南市桑野町

喜多昌弘

## 虫おくり 番外編

## 稲わら文化を考える

荒田から水田にし苗を植え約4ヶ月後収穫を迎える。今年も家で作った新米をご飯にしてください。天と地に感謝する。

米作りにより、文化が如何に育まれたか思いを巡らす。そうすることでその豊かさを改めて確認したいと思う。

苗代を作り籾(もみ)を播く、苗が育ったところで水しめした田に植えていく。昔はこの重労働を田植え歌でリズムをとり植えていた。仕事歌は共同作業をする中で生まれたものだろう。励まし合ってこなしてきたのだと思う。草取りをし、防虫をする。虫送りはまさに防虫行事である。斎藤別当実盛の恨みにひっかけて虫を他の土地へと追いやるのである。日々の水管理が行われ収穫となる。自然の恵みに感謝し、収穫のお礼として地域の神様である八幡神社に捧げられる。

収穫後の稲からは米だけではなく、米糠、籾殻、藁(わら)がとれる。米ぬかで漬物をつくり、籾殻は肥料になる。藁は肥料や飼料としてだけではなく生活のすべてに利用される。藁は縄の材料となり、みのなど衣服になり、日本家屋の壁になり、むしろとして敷物にもなり、ぞうり、わらじと履き物にもなり、そしてかますが編まれ米俵にもなる。注連縄(しめなわ)が編まれ正月を飾り左義長で今年の豊作を祈り、その火で清められ竹に結ばれた短冊は、玄関につけ魔除けとなる。

米づくりは、自然の恵みと共にあり、衣食住になくはならないものになっている。太古から営まれ引き継がれてきたものが知らず知らず身につき、モノに対する『ありがたみ』が生活を豊かにすることにつながっていると思う。

# 「人権力」ですみよい町に！ 今、戦争を考える③

社会教育指導員 佐藤和久

## アメリカの教訓

戦後、日本はアメリカから産業や文化面等で多くの影響を受けてきました。ところが、戦争に関しては、事情が異なります。つまり、私たちは戦争について、アメリカから「負の教訓」ともいうべきものを受けてきたと思うのです。

なぜなら、アメリカはこれまで多くの戦争（メキシコ戦争、第二次世界大戦、朝鮮戦争、ベトナム戦争、イラク戦争など）に関与してきたという事実があるからです。



国が誕生して240年。そのうち223年間、率にすると実に93%の割合で何らかの戦争に関与してきたのです。

では、アメリカ国民はそれほど戦争を望んでいたの

でしょうか。決してそうではないと私は思います。では、国民が戦争を望んでいないのになぜ戦争が起こるのか、それを明らかにする

「負の教訓」ともいうべきことがらを探ってみます。

## 軍産複合体

軍産複合体とは、軍部と武器を作っている企業が結びついてできた巨大な利益を生む組織のことを言います。アメリカには軍事企業が数多く存在しています。もしこれらの企業がなくなつ

たら数百万の人たちが失業し、生活できなくなる恐れがあります。軍事企業で働く人たちは、生活のために武器を作る一方で、それらの武器で多くの人の命が奪われるという何とも言えないジレンマを抱えているのです。

戦争をすることによって利益が生み出され、多くの国民がその利益に支えられているという構造がある限り、永久に戦争は無くならないように思います。

## 資源確保

「エネルギーを制する者は世界を制する」という言葉があるように資源、とりわけ石油資源を自国以外に求めようとする動きは、アメリカに限らず、強国と言わ

れるロシアやヨーロッパ諸国、そしてかつての日本にもありました。石油資源からは莫大な利益が発生します。現在でも他国の石油資源を剥奪する動きが戦争を引き起こす元になっているのは確かなことです。

### 経済的徴兵制度

“経済的徴兵制”というシステムがあります。経済的に苦しい若者が、学費の肩代わりや給料・年金の支給等を引き替えに志願して戦争に行くことです。アメリカは現在、強制的な徴兵制ではなく、志願徴兵制を基本としています。一見、志願兵が減少するのではと思いません。しかし、格差社会で低所得者層が増加していることから、志願兵の確保

に困ることはないのです。

国のために、あるいは民主主義を勝ち取るためにと教えられ、正義感を持って自ら出兵したはずの若者たちですが、帰還した多くの兵が、現実との乖離（かいり）や真実に気づき、「戦争に行つたことは間違いであつた」という趣旨のことを告白しています。

### 法律

アメリカでは9・11後、「愛国者法」という法律ができました。この法律は、「テロとの戦い」対策としてできたセキュリティを強化するための法律です。この法律ができてから、個人のメールや電話のやりとり、行動情報がチェックされることが多くなりました。自由に

ものが言えなくなり、国の方針に異議を唱えようと裏切り者扱いされるといふ事態が生じてきました。

### 戦争へのステップ

国連婦人開発基金やアムネスティ・インターナショナルなどの職員を経験し、アメリカの現状をつぶさに見てきた堤未果さんは、戦争をつくり出すには3つのステップがあるといいます。そのステップとは、〈凶悪な敵〉をつくり、〈被害者意識〉を持たせ、〈愛国心〉を煽ることだそうです。これまでもアメリカが繰り返してきた戦争を振り返ってみますと、このパターンがその多くに当てはまるようです。

今回は、アメリカの例を

取り上げてみましたが、確かなことは、過去のどの戦争を見ても、「させる人」と「させられる人」がいるということです。犠牲になるのはいつも「させられる人」や戦争を望んでいない一般市民です。そして、戦争によつて何らかの利益を得るのは決まって「させる人たち」です。

現代は情報化時代です。私たちは、平和を維持する方法として、過去のいろいろな戦争にまつわる多くの情報を検証し、そこから学んだことを戦争を起こさないための活動に生かすということができません。そうすること、「させられる人」にならず、「知らない間に戦争が始まっていた」という状況をも回避することができないのではないかと思うのです。

# 中学校郡総体

## 【野球】6月17日(金)～18日(土)・23(木) 会場…蛇王球場



### ■準優勝…海陽中

1回戦…穴喰中 3 - 2 日和佐中    2回戦…海陽中 3 - 2 穴喰中    決勝戦…牟岐中 3 - 2 海陽中

## 【サッカー】6月18日(土) 会場…海陽中学校



### ■優勝…海陽中    海陽中 0 - 0 日和佐中 (PK 4 - 2)

## 【バスケットボール】6月18日(土) 会場…海陽中学校

### ■男子の部 優勝…海陽中

《リーグ戦》海陽中 109 - 32 穴喰中  
海陽中 91 - 26 牟岐中  
牟岐中 83 - 21 穴喰中

### ■女子の部 優勝…海陽中 準優勝…穴喰中

《リーグ戦》海陽中 62 - 23 穴喰中  
海陽中 83 - 34 牟岐中  
穴喰中 83 - 21 牟岐中



## 【バレーボール】6月18日(土) 会場…日和佐中学校



### ■優勝…海陽中 《リーグ戦》

海陽中 2 - 0 日和佐    海陽中 2 - 0 由岐・穴喰  
海陽中 2 - 1 牟岐中    牟岐中 2 - 0 由岐・穴喰  
日和佐中 2 - 0 由岐・穴喰

## 【卓球】6月18日(土) 会場…由岐中学校



### ■男子団体 優勝…海陽中

《リーグ戦》海陽中 3 - 0 穴喰中  
海陽中 3 - 2 由岐中  
由岐中 3 - 0 穴喰中

### ■女子団体 優勝…海陽中

海陽中 3 - 2 由岐中

### ■男子個人戦 5名が県総体・海陽中

2位…久保 健太    3位…山田 裕月  
4位…亀井 優汰    5位…雑賀 和平  
6位…森崎 康貴

### ■女子個人戦 7名が県総体・海陽中

1位…山影 明加    2位…福留 李音  
3位…乃一 奈桜    4位…原 佳穂  
5位…築地 真生    6位…木元 洸  
8位…岡川 結花

## 【剣道】6月18日(土) 会場…牟岐中学校



### ■準優勝…海陽中

■女子個人 3位…丸岡 眸美

■オープン競技 女子団体…1勝1敗

## 【相撲】6月30日(木) 会場…牟岐中学校



### ■団体

総合準優勝…海陽中    3位…穴喰中    2年優勝…海陽中    1年優勝……海陽中

### ■個人

1年準優勝…乃一陽大(海陽中)    2年優勝…川縁善輝(海陽中)    3年3位…西山璃音(穴喰中)

# ファミリーマートカップ 第36回全日本バレーボール小学生大会 徳島県大会

## **優勝!** **— 全国大会出場 —**

平成28年6月18日・19日・26日の3日間にかけて、藍住町民体育館他で開催されました、「ファミリーマートカップ第36回全日本バレーボール小学生大会徳島県大会」で、「穴喰杉の子チーム」が優勝しました。  
優勝した「穴喰杉の子チーム」は平成28年8月9日から東京都他で開催される全国大会に出場します。



<生涯学習の趣旨>

生涯学習は、健康で豊かな生活を営み、仕事に役立つ知識や技術を身につけて、いきがいのある充実した人生を過ごせるように生涯を通じて行う学習活動のことです。

生涯学習講座



完成!

ビーズアクセサリー  
手づくり体験!



おそろいのブレスレット!

◆ブレスレットとストラップを作成しました。8の字編みは、ビーズ初心者さんでも簡単に作れる編み方です。クロスした部分がお花のようになるので、ビーズを選ぶときはお花の部分とつなぎの部分で好みのビーズを選んでいくといいですね。編み方を覚えてしまうと皆さんすごい集中力で取り組まれていました。その甲斐あってすてきな作品が出来上がりました!



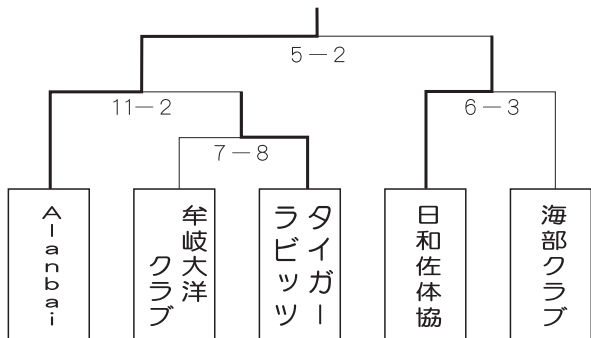
※ 次回の体験講座も現在企画中です。お楽しみに!

第11回  
海陽町体協軟式野球一般大会

平成28年5月15日に蛇王球場で開催された「第11回 海陽町体協軟式野球一般大会」におきまして、地元チームの「A-anbai」が優勝しました。



優勝：A-anbai 準優勝：日和佐体協

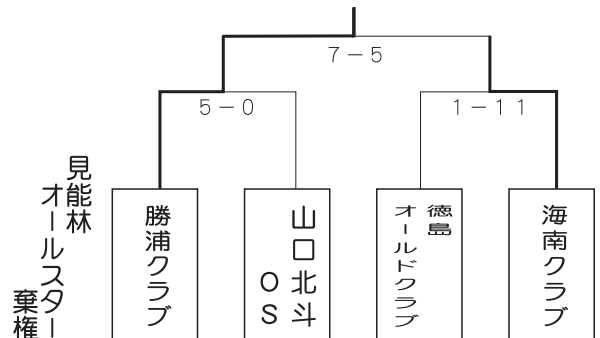


第11回  
壮年軟式野球海陽大会

平成28年6月26日に蛇王球場で開催された「第11回 壮年軟式野球海陽大会」で、地元チームの「海南クラブ」が準優勝しました。



優勝：勝浦クラブ 準優勝：海南クラブ





# 海陽の防災意識 をたどる

～ 『震潮記』 と  
町内地震・津波碑の  
メッセージを読み解く～

海陽町立博物館  
ミニ企画展



鞆浦「海嘯（しょう）記」



大岩「慶長・宝永地震津波碑」



『震潮記』（田井 晴代氏所蔵）

【日 程】 7月31日(日)～8月14日(日)

【観覧料】 無 料 ※月曜日休館

【場 所】 海陽町立博物館 企画展示室

【主催・お問合せ先】

阿波海南文化村 海陽町立博物館 TEL0884-73-4080

## ニューフェイス 紹介



別府 優香さん

こんにちは。初めてお目にかかる方も、この名前に見覚えのある方も今後ともよろしくお願ひいたします。

現在、海陽町立博物館において受付や事務などを担当させていただいております。不慣れなことも多いですが、楽しくお仕事をさせていただいております。

博物館の仕事を選んだ理由は海部刀に魅了されたからです。海部刀そのものの芸術的な素晴らしさと、ド田舎にこんな芸術的なものが作られた歴史があるというギャップを知った時のことは忘れもしません。当時、私は小学生でした。

日本刀は大変わかりにくい世界で、私も理解できていない部分が大半です。これから勉強を重ねるとともに、地域の皆様と日本刀の魅力を共有できればと思います。

### 穴喰俳句 六月

母の日が手持ち無沙汰となりにけり 新井久実  
 五月晴順番を待つ洗い物 梅田千恵子  
 梅雨に入るほかに事なく日記閉す 樽井みつ子  
 木戸押して置く回覧板桐の花 鍛冶田晟  
 老鶯は今日も来て啼くお別れに 中岡啓泰  
 逢う二人水辺の蛍愛灯る 山本球子  
 夏の月最後の部活帰る道 新井駿也  
 閉ざされし生家の庭や緑さす 元木栄子  
 蛍狩老妻の手に手の触れて 広田完作  
 薫風や海に向いて深呼吸 陸田ヨネ子  
 目もあやに三万輪の牡丹かな 川野佳代  
 透き通る緑や苦き露香り 外山千佳  
 夏夕べ落つる点滴見ておりぬ 長岡達江  
 花付きの胡瓜や今朝はパン食に 寺崎照代  
 よろこびの重なる日なり濃紫陽花 間戸谷恵子  
 朝市の売子涼しき言い合へり 元木朱子  
 草苺ここから先は土佐の国 木下野生

### 海南俳句

工房のこけし艶めく新樹光 廣瀬克子  
 坂ふたつくだつて四条京薄暑 橋本幸子  
 入梅の話にはじまる長電話 津川須美江  
 短夜や犬鳴きやまず白みゆく 坂本節子  
 短夜の夢に目覚めし波の音 田中たち子  
 青梅の丸き実にそう雨しずく 山本達平  
 五月雨や斜はすにさし行く蛇の目傘 新居利之  
 五月雨や相合傘の角まがり 森口豊子  
 梅雨来たり部屋干し服に居間取られ子 平道はつ子  
 蛍火を川面に映し深き闇 森 浩子  
 水の田に吉事の神か白い雲 吉田保則  
 人恋ふる暗夜に鳴くや青葉木菟 岳山祐弘  
 怪我入院関わりのなき梅雨入かな 谷 よしこ  
 丸寝して紫陽花の夢に目覚めをり 叶岡陽二  
 若鮎の眩しく堰を飛びにけり 谷口洋根子  
 若宮能鼓の音に見る白日夢 谷 律子  
 江戸風鈴異国めきたる石畳 武知陸子  
 しくじりに悶悶の夜や明易し 鍛冶崎郁夫

### 海部ひまわり俳句

木耳きくらげや雨音沈む森の奥 津田 一  
 田に落ちる水音を背にお茶を摘む 西本公明  
 おそろいの登山靴なり上高地 榊原礼子  
 長梅雨や旅の手帖の大欠伸あくび 南 歌子  
 ほたるとぶよろこぶ僕は大なみだ 松田嘉子  
 風薫る橋の上から海眺む 元木美枝子  
 パチパチとしゅざんのとけぬ春の雪 佐藤美代子  
 老鶯の声聞きながら墓参り 穴戸道子  
 夏の朝小鳥の声が風となり 岡 育代  
 かすみゆく連山に映ゆ青葉群 川野照美  
 伸ばす手に迷い蛍の止りけり 福田敦子  
 静けさや独り食ふやまももの赤 佐藤薦子  
 見上げれば打ち上げ花火と外国人 穴戸保夫  
 躍はなり口線香一本立つ滝の音 関山無門



### 海南短歌会

児童数減りし母校の通学路黄色の背中がとぼとぼ帰る  
 蛭子美恵子

配慮なくなしきことに出会いたり心揺れるも日々明らけく  
 大久保スエ子

貝がらも蟹もおらざる海にきて陽にあたかき小石を拾う  
 土谷公代

笥の天を突くかと思うごと真すぐにのびて空はただ蒼  
 桑村未貴子

離れ住む男孫おまごあるらし鯉のぼりのひるがえりいて静もれる家  
 細野綾子

### 穴喰短歌会

それぞれに枇杷色の灯を浮かせている梅雨深き夜の海添いの町  
 大黒千枝美

春うるむ風に呼ばれし思ひしてふりむく野路に母子草萌ゆ  
 石井町子

言間のごとく降りつく雨音やあわき紫陽花七色はなつ  
 山崎千栄子

巡りくる季節を待ちて競う花萌え立つ彩の愛しい命  
 桑野亀乃

仰ぎ見し熊本城の気高さを思い浮べて心痛むる  
 舛谷恂子

畦道を小蟹追いつつ犬散歩梅雨明け間近半夏生咲く  
 三野みよ子

蜂須賀家一九代の正子様電話の向う張りある御声  
 田井晴代

### 網代川柳六一八号句会より

平和泣くテロや戦争いつ消せる  
 福岡純山

もう一度跳ねて飛びたい足の愚痴  
 石垣小道

無理するなボタンが飛ぶぜ試着室  
 井上可楽

でかした娘次男をゲット籍入れる  
 黒岩一平

子ばなれが私にくれた広い視野  
 風呂谷いずみ

趣味広くいつまでつづく笑い草  
 高木柳月

井戸端にストレス発散して帰る  
 中村あかり

肚決めて歩んだ道にある疑問  
 太田一洋



トピック

## 海陽と海部城

### ふるさと海陽の遊び基地「海部城」



海陽一帯は全国的にも海運業が盛んな地域であり、経済的にも重要な場所であった。室町時代、日本の中心であった京都に通じる商船の出入りを記録した「兵庫北関入船納帳ひょうごきたせきいりふねのうちょう」において、四国の中で最も多い数が記されている。中国との交易も盛んに行われていたようである。

天正3（1575）年に長曾我部元親ちようそがべもとちかの進軍により海部城は落城するが、10年後に蜂須賀家政はちすかいえまさによって約7000石の阿波九城の一つとなる。その後、地域の遊び基地にもなる。

最初の天下人である三好長慶みよしちようけいや有名な茶人である千利休せんりのきゆうと義兄弟でもある海部氏かいふしは、先見の明をもって地域の特徴をうまく活用し、天下中央と強く関わっていたといえる。